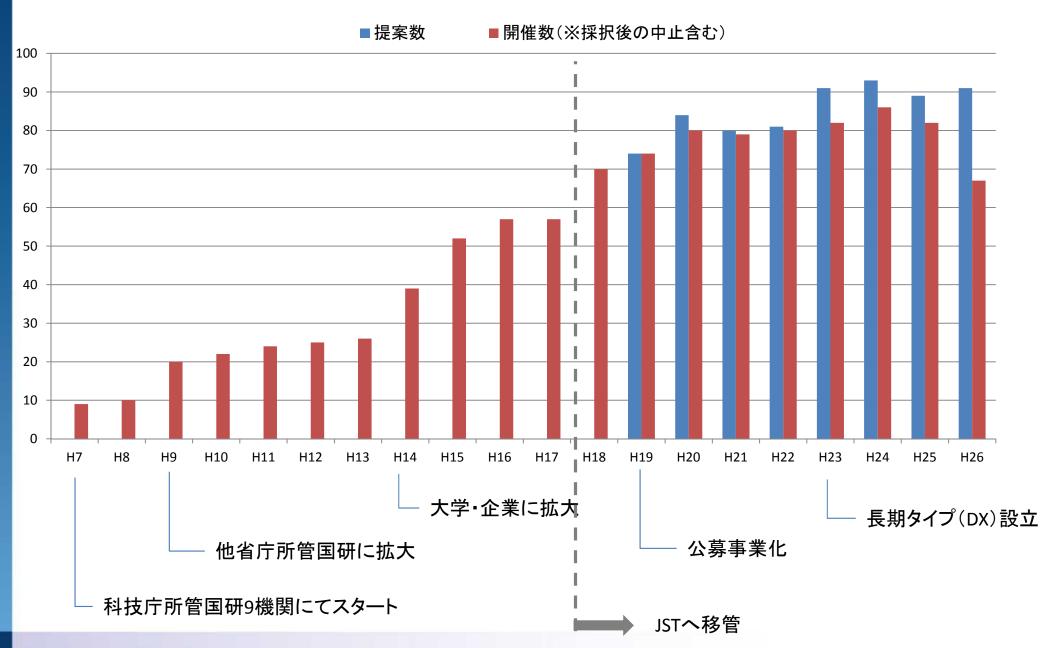
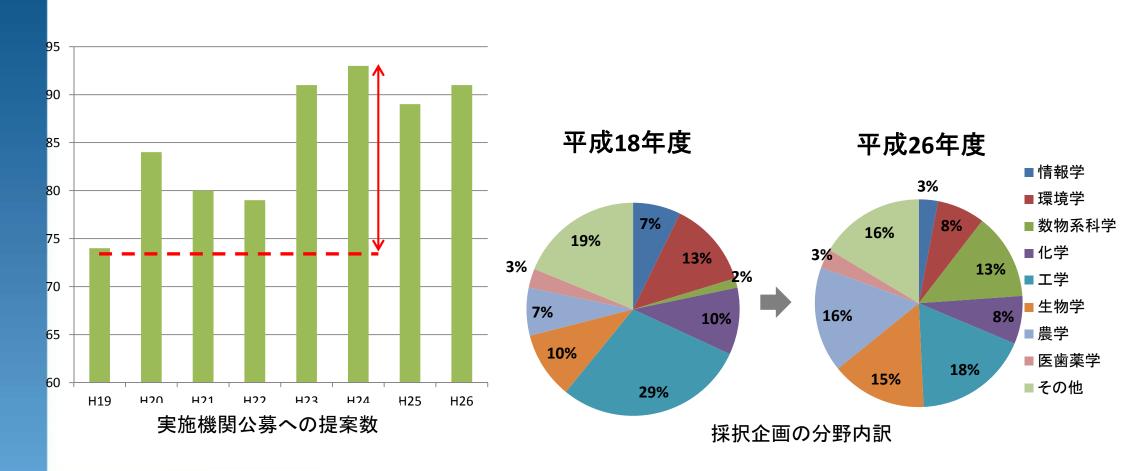
実施機関(開催会場)統計

開催状況の変遷



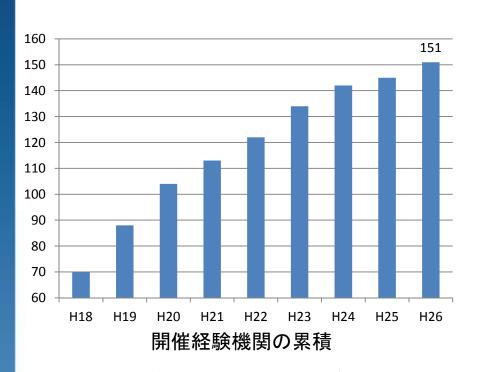
企画提案の推移

- JST移管後、提案受付型の公募事業へ。企画提案数も順次増加
- 提案の増加に伴って企画のバランスも変容



研究機関における開催経験の蓄積

• JST移管後、累計で約150機関が開催を経験



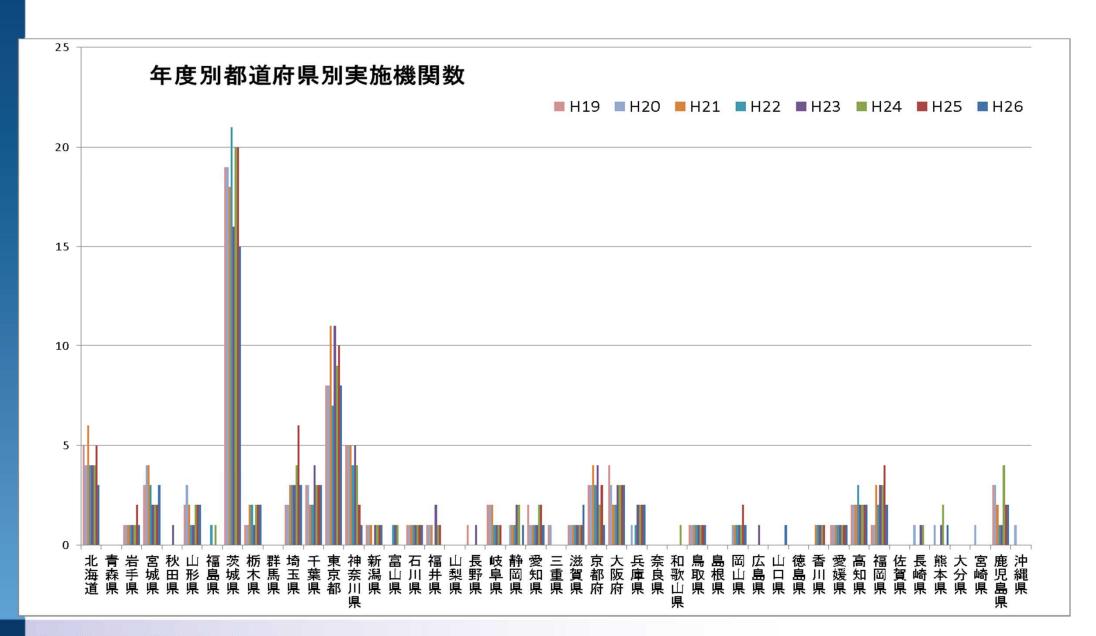
2% 1 20% **2 3** 9% **4 5** 11% 18% **6 7** 13% 8 16% **9**

開催回数割合(N=151)

各年の新規開催および終了数

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
新規	70(※)	18	16	9	9	12	8	3	6
終了	12	9	7	8	6	8	12	22	_

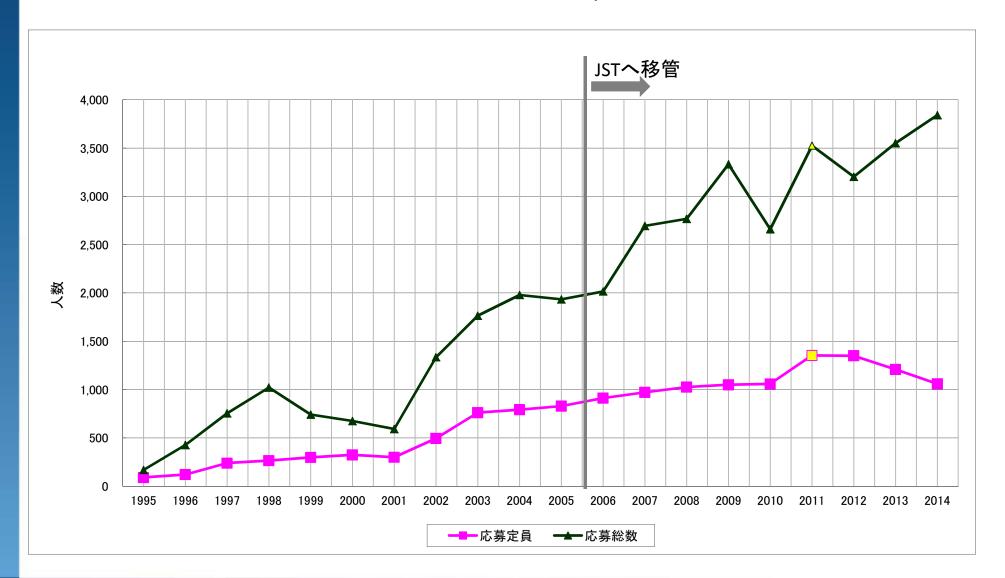
都道府県別開催実績



応募者·参加者統計

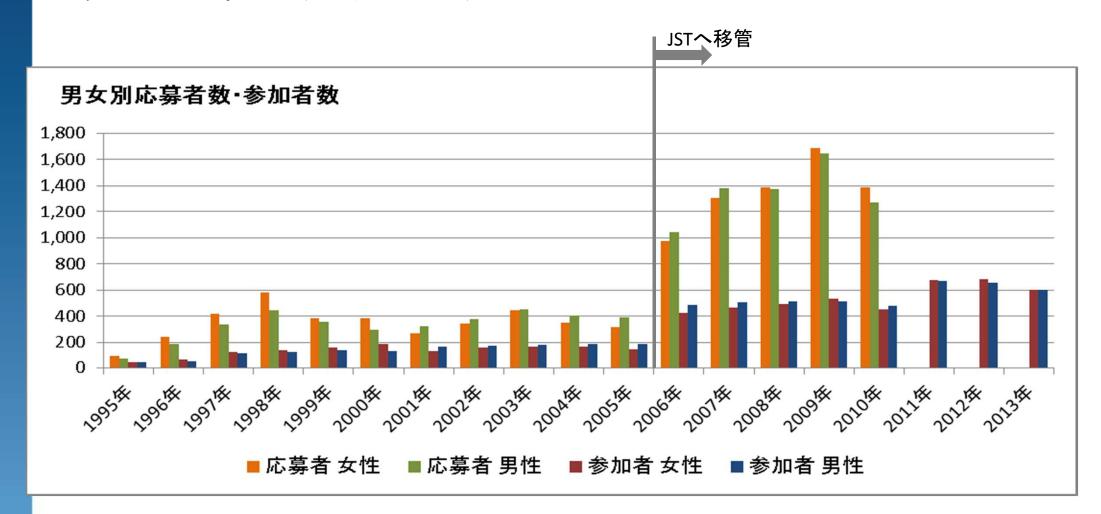
参加応募者数の推移

• 応募者数は年々拡大、そのうち約15,000人の生徒が参加を経験



参加男女別の推移

男女の応募者数、参加者数はほぼ同等



参加生徒に及ぼした影響

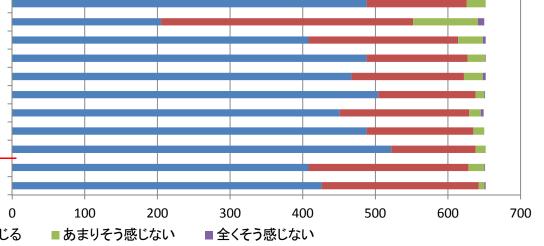
意欲向上、興味喚起等の影響。特に実験・実習に高い満足度。

参加による意識変容

※サマー・サイエンスキャンプ2014参加者アンケート(N=652)より

キャンプで出会った人達と今後も交流を続けたいと思う 目指すべき研究者のイメージが明確になった 科学技術を必要とする職業に就きたいという思いが強まった 進路選択や将来の職業を考えるうえで役に立った 自分の進路や目標と関連させて理科系の科目を考えるようになった 科学技術に関する学習意欲が向上した

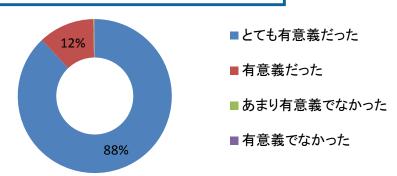
実社会における科学技術の活用について興味が強まったより高度な内容や先端のテーマに対する興味が深まった理科系の科目に対する興味や関心の幅(領域)が広まった科学に携わる者としての姿勢について理解が深まった科学的な考え方や研究の進め方について理解が深まった



■強くそう感じる

■ そう感じる

参加したプログラムへの評価



個々の構成要素への評価

